

鳥獣対策だより

イノブタはどこへ消えたのか？

みなさんは避難地域にイノブタが生息しているという噂を聞いたことがありますか？インターネット上では、東日本大震災の影響で爆発的に増えたイノブタが、現在も避難地域に多数生息しているという情報も見られます。



イノブタが大繁殖しているという噂もあるが…

2018年に福島大学などが行った調査では、避難地域周辺で2014年

から2016年の間に捕獲されたイノシシの遺伝解析が行われましたが、ブタ由来の遺伝子を持っていたイノシシ（いわゆるイノブタ）の割合は避難12市町村内でも11%程度でした（表参照）。形態的には普通のイノシシと見分けがつかなかったこともあわせて報告されており、ブタ遺伝子の影響が減少している可能性が示唆されています。

イノシシが捕獲された地域	サンプル数	ブタ由来の遺伝子を持つイノシシ	割合
避難12市町村内	36頭	4頭	11.1%
避難12市町村外	39頭	0頭	0%
全体	75頭	4頭	5.3%

表：捕獲地域別イノブタの割合 <奥田ら(2018)『福島第一原子力発電所事故後に逸出したブタはニホンイノシシへの遺伝子汚染をもたらしたのか』から作成>

この結果から実際の状況を推測すると「震災後に家畜のブタと野生イノシシの交配によって、一定数のイノブタが産まれた可能性はあるが、目に見える影響は少なくなっている」と考えることが出来そうです。

このように野生動物に関する噂は、実際に確認することが難しいためか、尾ひれがついて話が大きくなりがちです。被害対策に影響する可能性がありますので、情報が本当に信頼出来るものなのか、しっかり確認することが重要です。正しい知識に基づいた、効果的な対策を行っていきましょう。

裏面はよく聞く野生動物の噂にお答えします

これってホント？ 巷でよく聞く野生動物のウワサ



ウワサ その1	サルは頭がいいので、対策は意味がない？	サルが他の動物に比べ、特に頭がいいということはありません。執着心の強さや手先の器用さなどで、頭がよく見えるかもしれませんが、特性を理解して粘り強く対策することが重要です。
ウワサ その2	野生動物が苦手な音、臭い、色、光などがある？	野生動物は環境変化に敏感なため、一時的に嫌がる可能性はあります。しかし慣れによって効果が薄れやすく、長期的な対策には不向きです。
ウワサ その3	伝染病でイノシシが少なくなった？	日本国内で豚熱という感染症が流行しており、避難12市町村のイノシシも減少しているようです。ただし、イノシシは出産数が多く、数が増えやすい動物なので、対策は継続する必要があります。
ウワサ その4	野生動物は深夜にこっそり行動している？	危険を感じなければ、多くの動物が明るい時間にも活動します。特に早朝や夕方は、野生動物が活発に行動する時間帯です。サルのように昼間にしか行動しない動物もいます。
ウワサ その5	野生動物は本来の住処である山に追い返すべき？	里山周辺の環境を好む動物にとっては、人が住んでいる場所も住処になってしまう可能性があります。追い返すというよりも、人と動物の生活圏を分けるという考え方が重要です。

基本的な鳥獣被害対策や対策事例については、過去の「鳥獣対策だより」をご覧ください。
スマホやタブレットで右のQRコードを読み込むか
“福島県 鳥獣対策だより”で検索！



支援員日記

支援員が避難12市町村で毎年秋に実施しているイノシシ痕跡調査。自分の足と目で現状を把握する貴重な機会です。今年も9月からス

タートしましたが、ここまでの印象では去年より痕跡が増えた市町村が多そうです。詳しい結果は次号の記事でお届けします！（石井）

福島県では、避難地域鳥獣対策支援員を避難地域12市町村に配置しています。地域住民と共に鳥獣害対策に取り組み、コミュニティの再構築を図ることを目的としています。



対策のご相談、情報提供はお住まいの市町村役場の担当課へ！